

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞
感染対策の基礎知識と具体策

～多剤耐性菌～

所属 _____

氏名 _____

この研修の目的

- ・ 多剤耐性菌の特徴を理解し、感染予防に努めることができるようになる。
- ・ 多剤耐性菌による感染症発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる。

MEMO

多剤耐性菌とは

- ・ もともとはどこにでもいる毒性の弱い菌
- ・ 健康な人であれば問題ないが、抵抗力の弱い()が感染すると()する可能性がある
- ・ 多くの()が効かず、使用できる薬が()されてしまうため、他の細菌感染に比べて治療が難しい
- ・ 症状を和らげる()のみとなる場合もある

MEMO

多剤耐性菌の特徴

「多剤耐性」ではない状態では、身の回りに存在していたり、常在菌として持っている場合もある

⇒ () と比べ、稀にしか存在しない

つまり

日常生活で多剤耐性菌に感染する可能性は少ない

⇒ 多剤耐性菌が体内に入ったとしても、() であれば、症状もなく、やがて菌もいなくなる場合も多い

MEMO

代表的な多剤耐性菌①

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌()】

⇒ ()が多くの抗生物質に耐性を持った状態

○感染すると・・・

- ・ 腸炎、肺炎、敗血症などを起こす
- ・ 急な高熱、血圧低下、下痢、腹部の張り、意識障害、腎機能障害、肝機能障害などの症状が出る

日本で()多剤耐性菌

MEMO

代表的な多剤耐性菌②

【多剤耐性緑膿菌()】

⇒ ()が多くの抗生物質に耐性を持った状態

○感染すると・・・

- ・ 様々な部位で感染症を引き起こす
- ・ 尿路感染症や褥瘡などの傷への感染、呼吸器症状や消化器症状などが見られる

MEMO

多剤耐性菌に感染するとどうなる？

①入居者・利用者への影響

- ・ 多剤耐性菌の感染力や病気を引き起こす力は、
()と同じ
⇒ 健康な状態であればすぐに病気を引き起こす
わけではない
- ・ 身体の()が落ちている時には、多剤耐
性菌による感染症が発症することがある
⇒ 使用できる()が限られるため、治療が困難

多剤耐性菌による感染症は、
通常の細菌による感染症と比べ、()が高い！

MEMO

多剤耐性菌による感染症が発生するとどうなる？

②職員への影響

- ・ 身体の抵抗力が低下している高齢者には十分な注意が必要
 - ⇒ 徹底した感染対策が求められるため職員の()が増える
- ・ 誰もが感染する可能性がある
 - ⇒ 職員自身も感染の可能性があるため、()も発生し、組織の悪循環を生み出す要因にもなり得る

MEMO

多剤耐性菌による感染症が発生するとどうなる？

③施設運営への影響

- ・ 新規入所の()が必要となり、
()が考えられる
- ・ マスクや手袋などの予防具の購入により、
()を伴う
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビでの報道等があると、施設に対する()を失う
⇒ 以降の施設運営に大きな影響を及ぼす

MEMO

多剤耐性菌の感染経路と予防策

多剤耐性菌は()で拡がる

⇒ ()を介して感染する頻度が高い

つまり

職員の手には菌が付着した状態で、入居者に触ると菌をうつしてしまう！

MEMO

多剤耐性菌感染症発生時の対応

- ① ()と接触しないようにする
⇒ 原則として()
- ② 介助時には()を着用する
⇒ 同じ人の介助でも、()に触れたら交換
- ③ 職員は手洗い、消毒()を徹底する
- ④ 可能な限り、()の物品を使用する
- ⑤ 汚染物との接触が予想される時には()を着用

()対策と同時に、()
(標準予防策)を徹底する

MEMO

介護職の役割

- ・ 感染症対策の基本に努める
 - ① 施設内での()を防止する
⇒ 環境整備、手指衛生の保持
 - ② 感染症の()を減らす
⇒ 入居者の健康管理
- ・ 適切な() (標準予防策)を実施していれば、保菌者への特別な対応は不要

正しい知識で感染対策を意識した
サービス提供を心掛けましょう！

MEMO
